

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策等研究事業）  
分担研究報告書

副腎偶発腫に関する研究

研究分担者 上芝元 東邦大学 医学部・教授

研究要旨

H26年～28年に行った副腎偶発腫の長期予後調査の継続的解析を行った。さらに、日本泌尿器科学会、日本内分泌外科学会、日本内分泌学会と連携し、国内外のエビデンスを収集したうえでコンセンサスステートメントの作成を開始した。内分泌学会の臨床重要課題に採択され、診療ガイドライン作成に着手している。

A. 研究目的

副腎偶発腫についての国内外のエビデンスを収集しコンセンサスステートメントを作成する。本研究班で平成26年～28年に行った副腎偶発腫の長期予後調査の継続的解析を行う。日本内分泌学会の臨床重要課題に申請後採択されているため、診療ガイドライン作成を目的とする。

B. 研究方法

本研究班で平成26年～28年に行った副腎偶発腫の長期予後調査のデータを使用する。日本泌尿器科学会、日本内分泌外科学会、日本内分泌学会と連携し、国内外のエビデンスを収集したうえでコンセンサスステートメントを作成する。内分泌学会の臨床重要課題採択されているため、診療ガイドラインの作成に着手する。

C. 研究結果

2020年にEndocrine Journalにfirst reportを掲載した。ホルモン非産生腺腫と考えられる症例でも経過観察期間は3年以

上、可能であれば10年間とすべきで、経過観察期間中のCTおよび内分泌学的検査の頻度については、画像上副腎癌が疑われるものでは3ヶ月毎の再検が推奨され、それ以外では初回のみ副腎癌を念頭に6ヶ月後に再検し、以後1年毎3年間以上の経過観察が推奨される。また、副腎偶発腫に脳・心血管障害および悪性腫瘍を合併する頻度は高く、早期より積極的な疾患管理が必要である。

日本泌尿器科学会からは副腎腫瘍取扱い規約が発行されている。また日本内分泌外科学会からは内分泌非活性副腎腫瘍診療ガイドラインが発行されている。内分泌学会の臨床重要課題に採択された。

D. 考察

副腎偶発腫の診療ガイドライン作成に向け、着実な成果が得られた。

E. 結論

これまで集積した副腎偶発腫症例の長ホルモン非産生腺腫であっても脳・心血管障

害の発症につながることを念頭に、早期より積極的な疾患管理が必要であると考え

る。  
日本泌尿器科学会、日本内分泌外科学会、日本内分泌学会と連携し、各学会からの見解が矛盾なく一致するよう、コンセンサスステートメントの作成を開始した。内分泌学会の臨床重要課題に採択された。診療ガイドライン作成に向けCQ作成中である。

F. 健康危険情報  
なし

G. 研究発表  
1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. 上芝元 副腎偶発腫瘍の診断と管理  
第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2022 年 9 月 9 日—10 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし

2. 実用新案登録  
なし

3. その他  
なし